

授業科目名・形態	薬理学概論 講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	金沢 久男	実務経験の有無	有	開講期	1年後期

### 【授業の主題】

薬物は、生体に作用して生物学的反応を引き起こす化学物質である。その中で、法律で定められ医療に用いられるものを医薬品といい、疾病の診断、治療、予防など医療一般に用いられる。本講義では、医療に用いられる薬物の薬理学を学び、看護師・助産師として必要な薬物療法の基礎知識を習得する。

### 【到達目標】

1. 薬理学とは何かを学び、薬物療法における看護師の役割を理解すること。
2. 薬が作用するしくみ（薬力学）と薬の体内の挙動（薬物動態学）の基本を理解すること。
3. 薬物使用の有益性と危険性を理解すること。
4. 薬と法律の関係についての基本を理解すること。

### 【授業計画・内容】

- 第 1 回 薬理学とはなにか（薬理学のなりたち、薬物療法における看護師の役割）
- 第 2 回 薬が作用するしくみ（薬力学）
- 第 3 回 薬物動態学（吸収・代謝・分布・排泄）
- 第 4 回 薬物動態の指標、薬物投与計画（TDM）
- 第 5 回 薬物相互作用
- 第 6 回 薬効に影響する因子、小児・高齢者への薬物投与
- 第 7 回 薬物使用の有益制と危険性（副作用、妊婦・授乳婦への薬物投与、薬害）
- 第 8 回 薬と法律（薬の管理・保管、新薬の開発と治験）

### 【授業実施方法】

講義形式を主体とし、教科書、PC（パワーポイント）を用いる。

### 【授業準備】

予習と復習を実行してほしい。「予習をしてきたこと」を前提に講義をするので、「教科書」を読んで講義を受ける際のポイントを把握してほしい。

### 【主な関連する科目】

臨床薬理学

### 【教科書等】

系統看護学講座専門基礎分野「疾病のなりたちと回復の促進③薬理学」14版  
著者：吉岡充弘・泉 剛・井関健；医学書院

### 【参考文献】

今日の治療薬 解説と便覧 2022：南江堂

### 【成績評価方法】

筆記試験 90%、授業態度等 10%により総合的に評価する。

### 【実務経験及び実務を活かした授業内容】

病院薬剤師としてチーム医療、調剤、患者への服薬指導等を経験。  
保険薬局薬剤師として調剤、患者や家族への服薬指導等を経験。  
病院での実務経験から得た多職種連携によるチーム医療の重要性について考えさせ看護師の役割を習得させる。  
病院、保険薬局での調剤経験から得た医薬品と服薬指導の基本知識を教え習得させる。

### 【学生へのメッセージ】

日常生活の中で医薬品に関心を持ち、疑問点について「調べる」習慣を身につけてほしい。また、医療に関する報道に関心をもってほしい。授業中は積極的な発言を望む。